

いいの山と青の山

まるがめへい野に、ふじ山の形をしたいいの山と、なだらかな青の山が、なかよくならんで立っています。

むかし、この二つの山は、なかのよい友だちでした。とても近くに、ならんでいましたし、よくにた高さの山でしたから、長い間、なかよくくらししていました。

ある日、いいの山がこう言いました。

「おい、青の山よ。おれは、おまえより強いんだぞ。」

青の山もまけては、いません。

「なに言うんだい。ぼくの方がもっと強いんだぞ。」

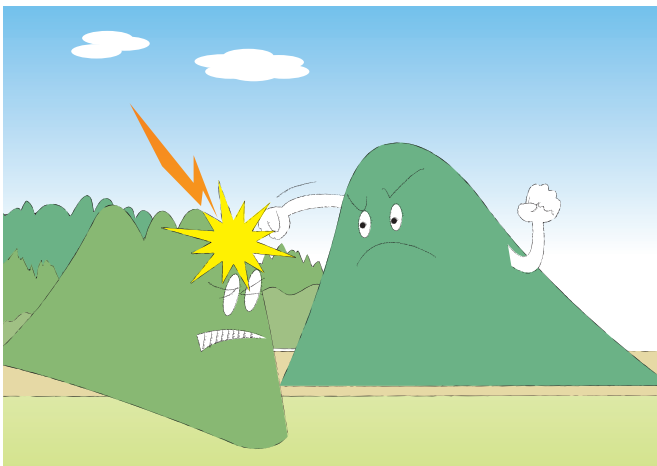
いいの山は、目をつり上げて、

「おれの方が大きくて、どうどうとして、いるだろう。」

という、青の山もすぐに、

「そんなことあるものか。ぼくのほうが木がたくさん生えて、あおあおとしているだろう。きみなんかより、ずっときれいなんだぞ。」

と、言いかえました。そして、とうとうつかみ合いのけん



かになってしまいました。

いいの山は、かんかんにおこって、とうとう青の山の頭をスパツと切りとってしまったのです。頭がなくなってしまうた青の山は、あまりのことに、なきだしてしまいました。

そこへ、友だちの天ぐがやって来て、
「おい、どうしたんだ。二人ともけんかはやめなよ。」
と、言って、止めました。

でも、青の山は、ずっとなきつづけています。
どれだけそうしていたでしょうか。いいの山が、はずかしそうに、

「ごめんね。おれ……。」
後は、言ばになりません。

すると、青の山も、

「ぼくも、わるかったよ。ごめんね。」
と、あやまって、にっこりわらいました。

こうして、いいの山と青の山は、もとのように、なかよしの友だちになつたそうです。

